

研究ノート

童謡を初級日本語の授業に取り入れる試み

饒 玲 玲

はじめに

子供のとき覚えた歌を今なお覚えているであろうか。筆者はまだ「ABCの歌」を覚えている。英語のアルファベットを忘れたとき、よくこの歌を心で歌って、思い出すようにしている。日本語を勉強しているとき習った歌がまだ歌えるかと、日本語が専攻だった友人に聞いたところ、「幸せなら手をたたこう」ならまだ歌えると答えた。「幸せなら手をたたこう」、この歌を習ったのはもう20年も前のことであるが、友人はまだそれが歌える。歌は不思議な力を持っていて、わたしたちの心に思い出を刻み込み、歳月を経てもなかなか忘れられないものである。

この不思議な歌の力を借りて、日本語教育に活用したら必ず「少ない労力で倍以上の成果を得る」ことができる。特に初級段階で、「て形、ない形、意志形」など用言の活用形を勉強するとき、いつも苦い顔をする学生には、苦にせずしてすぐ覚えてくれるようになる。

ではなぜ童謡を取り立てて述べるのか。まず童謡の定義を見よう。

まず中国の『新华字典』には、

1. 有韵的诗歌形式的儿童故事。(韻を踏む詩歌の形をする児童物語)
2. 在儿童中间流行的歌谣, 形式比较简短。(子供の中で流行っている短い歌)

という説明が書いてある(筆者訳)

Oxford English Dictionary (オックスフォード英語辞典) は、'nursery

rhyme' (童謡) に関して、

A simple traditional song or poem for children (子供向けの歌いやすくで伝統的な歌または詩歌)

と説明している (筆者訳)。

『大辞林』(第三版) には

- ① 子供のために作られた歌謡・詩。
- ② 民間に伝承されてきたわらべ唄守唄や遊びの時に唄う唄など。
- ③ 子供が作った歌や詩。

との説明が書いてある。

三カ国の童謡に関する定義の共通点は、子供向けの歌謡・詩である。子供が歌うものであるため、童謡は歌詞が簡単で、単純なリズム、同じリズムが何回も繰り返され、覚えやすいものと作られている。

次に、日本語学習者の出身地の童謡を利用するのは馴染みの歌を利用して学習タスクの完成に役に立つと思われる。小さいころ習った歌に対する親近感が学習活動に対するストレスを解消することができると考えられる。さらに、学習者が歌を覚えるために時間をかけなくて済むことになる。ただ単語、活用形などを覚えるには日本語の歌に拘らなくてもいい。学習者が自分で個性的な替え歌を作ったほうがむしろ覚えやすいのである。以上の考えから童謡を授業に取り入れて実践した。本稿は、その実践報告である。

1. 童謡と日本語教育

人間の右脳と左脳の働きは異なる。右脳は、話すこと、音楽、表情や絵画の構成など、姿勢やバランスを保ち、左脳は計算、声や音の認識、会話、読み書きなど運動脳として働くことがすでに明らかにされている。さらに、右脳もリーディングのような複雑な情報処理もでき、普通は右脳の言語処理の働きは眠っている状態であるが、特別な状況において目覚めると、リーディング・タスクの完成に役に立つ。音楽が右脳の言語処理区域に刺激を与え、認知タスクに影響を与えることは科学者の実験によって裏付けられた。

さらに、ジャンルの違うバックグラウンドミュージックが認知活動に与える影響も異なり、リズムが緩やかなクラシック音楽を聞きながら勉強する学生の成績が一番良かったが、それに対して、ロックを聞きながら勉強した学生の成績が一番悪かったということが実験から明らかになった（李宁宁・贾德梅・李洪玉2006）。

上記はバックグラウンドミュージックの学習に対する影響についての研究であるが、音楽の力に目をつけ、歌を教材として日本語教育に活用する教師も少なくない。

「歌を教材とした日本語教育と異文化コミュニケーション」（寺内弘子，1996）は、主に歌をディスカッションの話題として上げている。

『歌から学ぶ日本語』（寺内弘子，2001）は、いくつかの歌を利用して動詞の活用形から中上級のディスカッションの内容までに及んだ。

「日本音楽を題材にした日本事情の授業の試み」（作田 奈苗，1995）は、三味線を用いた音楽を利用して日本伝統文化を教えることについて述べている。

「Power Point を利用した初級用歌教材の効果的な利用方法」（奈須 吉彦，2007）は、Power Point を利用して歌教材の作成方法とその利用方法を提示している。

溝口博幸（2004～2013）は、さらに自分で歌を作り、文法の教え方について述べた。

『日本語で歌おう』（吉田千寿子，2006）は、数字の教え方、用言の活用形などの内容に触れた。

そして『歌って上達！！日本語会話！！』（Matthew J. Eynoon & Patricia A. Kataoka, 2004）や『唱歌学日語』（範春娟、王海燕，1998）は、歌の中に出てきた文法項目について説明している。

以上の研究をまとめて述べると、二種類の研究に分けられる。一種類はバックグラウンドミュージックは認知活動に影響を与えることについての研究であり、もう一種類は歌を利用して文法、日本事情を教えることについての研究である。今までさまざまなジャンルの歌が教材として用いられてきた。しかし、

学生の出身地ではやっている歌を取り入れた例はいまだにない。歌にはちょうど動詞の活用形がたくさんあるため、活用形を教授するにいいとかいった理由で歌を使う例が多い。その中には何遍聞いても覚えにくい歌が入っている。どんな歌が初級日本語に適するかについて分析した人はあまりいない。ここで学生の出身地の童謡に焦点を絞り、それを利用して初級日本語の授業でのやり方について述べたいと思う。

2 童謡を使用した例

2.1 片仮名を覚えるための替え歌 学習者—ブラジル学習者一名

日本語を勉強し始めたときなかなか覚えられないのは片仮名の形であろう。漢字圏の学習者は片仮名と漢字を関連づけて覚えるようにするが、非漢字圏の学習者にとってはなかなかの難事である。このブラジル人の学習者は一つの例である。日本語を勉強し始めて、すでに2ヶ月も過ぎたが、片仮名はまだ定着できない状態である。それで、より覚えやすいように、ブラジル出身の学習者に“Twinkle, twinkle, little star”（日本語版は「きらきら星」）の替え歌を作成させた。この歌は全世界の子供に愛唱されている童謡で、このブラジルの学習者もよく知っている歌である。下記は歌詞である。

Twinkle, twinkle, little star	片仮名の替え歌
Twinkle, twinkle, little star,	キ is key、ケ is skating very fast
How I wonder what you are!	ス is he mustache of Santa Claus
Up above the world so high,	ニ is number two, ヌ is the slaves arm tie up
Like a diamond in the sky.	ネ is necktie, ヘ is Fujisan
Twinkle, twinkle, little star,	ホ is the shiny cross, ミ is mini three
How I wonder what you are!	ム is the cow's sound, look like Confucius
When the blazing sun is gone,	arm writing,
When he nothing shines upon.	メ is the eyes of wolf, sounds like the sheep Me~

Then you show your little light, む is the fishing hook with more worms
 Twinkle, twinkle, all the night. ヨ is the brother of E, ワ is the walrus
 Twinkle, twinkle, little star, Twinkle twinkle little star
 How I wonder what you are! Don't forget the katakana.

この替え歌は主に片仮名の形から考えて、形が似ているものに例える歌詞を工夫した。学習者の発想が面白くて、見ている筆者も面白くてたまらなかった。この替え歌を練習するたびに片仮名のイメージが浮かんできて、覚えやすい。

2. 2 数字を覚えるための替え歌

学習者－中国の学習者一名&ブラジル学習者一名

初級段階において、数字を覚えるとき、学生を最も混乱させるのは「ひゃく」、「さんびゃく」「ろっぴゃく」……の読み方である。筆者も日本語を勉強し始めたころ、よく間違えていた。そこで、より覚えやすくするために、「幸せなら手を叩こう」を利用し、この歌のリズムに数字を乗せて替え歌を作成してみた。この歌はアメリカの歌で、日本語版、中国語版、ポルトガル語（ブラジル）版などたくさんバージョンがあり、世界中で歌われ、愛されている歌である。中国の学習者もみんなそのリズムに馴染んでいる。さらに、この歌は弾んだリズムで、数字の本来の明快な性格にぴったり合うこともこの歌を選んだ理由の一つである。それを利用して替え歌を作れば、旋律を頭に叩き込むのに時間をかけなくてもいい。歌詞は次の通りである。

中国語版 幸福拍手歌

替え歌 数字の歌

如果感到幸福你就拍拍手,	ひゃく円玉	さんびゃく	ろっぴゃく
如果感到幸福你就拍拍手,	はっぴゃく	きゅうひゃく	せんえん
如果感到幸福就快快拍拍手呀,	さんぜん	はっせん	いちまんよ
看哪大家一齐拍拍手.	ほら	わすれないでいよう	

……

(最初からもう一回繰り返す)

この替え歌のリズムを聞いたとたん、覚えにくい数字のため歪んだ学習者の顔が柔らかくなって、弾んだリズムにつれて手拍子を取りながら鼻歌を歌い始めた様子がまだ目に焼き付いている。

替え歌は歌詞が簡単で、短く、リズムも学習者に馴染みやすいものなので、すぐ覚えてくれた。

2. 3 て形を覚えるための替え歌

学習者－中国の日本語一年生の学習者30名

日本語の用言の活用形には、て形、意志形、可能形、受身形など、いろんな形がある、各種類の活用形は混同しやすく、しっかり定着するには時間がかかる。しかし、活用形を歌で覚えれば一日で覚えられる。ここで学生が作成した「て形」の替え歌を取り上げてみよう。

動詞「て形」の変形の規則を説明し終わった後、「排排坐，食果果」という広東語の童謡を選んで、学生に動詞の「て形」を使って替え歌を作成させた。この歌は広東省の童謡で、筆者の学生はほとんど広東省出身の学生なので、小さいときみんなこの歌を習ったことがある。筆者も小さいとき小学校で一度習ったことがあり、それからそのリズムは耳に残ったままである。その結果、学生は、いろんなバージョンの替え歌を作り出した。その中から一本を挙げて紹介してみよう。歌詞は次の通りである。

排排坐吃果果

て形の替え歌

排排坐 吃果果

ならんで すわって

你一个来我一个

果物たべて

大家快东 笑呵呵

きみに一個あげて

弟弟妹妹哟

うちも一個をもらって

4. 不足点と今後の課題

- 1) 学習者が数字の替え歌を歌うとき、よく三行目の歌詞を「はっせん、きゅうせん、いちまんよ」と間違えた。それは歌詞に出た数字はルールがないからだと筆者は反省している。
- 2) 動詞の活用形を覚えるための替え歌作成させる前に、三種類の動詞の活用形それぞれの少なくとも一つを歌詞に入れることを明言しなかった。
- 3) 授業に取り入れた童謡は筆者にとって印象深い童謡であるが、学習者も同感なのか分からない。今後は、学習者のモチベーションを高めることから考えて、学習者が自分で好きな童謡を選んで替え歌を作成したほうがいいと思われる。

実践の結果から見て、まだいろいろ不足点が多々あるが、童謡は初級段階で学習者のストレスを解消し、日本語の単語、用言の各活用形を覚えるのに役に立つことが分かった。

おわりに

ここでは初級日本語に着目し、学習者の出身地の童謡を授業に取り入れて実践してみた。実践の結果、学習者は単語、動詞の活用形を覚えることがそんなに難しくなくなったと感想を述べた。童謡を活用した授業効果は確実である。初級学習者の日本語に対するストレスを和らげ、緊張感を解消し、遊び心で新しい言語を身につけていく。その遊び心こそ、いろんなものを作り出す創造力のもとである。教師というものは、学習者の身に潜んだ創造力を引き出すものであると筆者は考えている。今後不足な部分を修正し、授業で再実験を行って童謡教授法の利点を検証したい。

参考文献

溝口 博幸 2004～2013 「歌を使った日本語文法教育(1)～(11)」「て形の歌」「形容詞の歌」

「受身形の歌」「可能形と誘いの歌」「使役形の歌」「条件の歌」「意志形の歌」「やりもらいの歌」「そうだの歌」「ない形の歌」について」』『近畿大学工業高等専門学校研究紀要(5)』

朱芳芳 2010 「日本童謡的特征対日语学习者的启示」『外语论坛』31

奈須吉彦 (2007) 「Power Point を利用した初級用歌教材の効果的な利用方法」『東アジア日本語教育・日本文化研究』10

王电建・赖红玲 2007 「基础英语教学中童谣, 歌曲的选择及具体教法」『英语教学研究』

李苏宁・贾德梅・李洪玉 (2006) 「背景音东对学习的影响研究」『教育科学研究』5

尾花充・三浦雅展・柳田益造 (2004) 「メロディーの認知とその心理的影響」『Information Processing Society of Japan (IPSJ)』111

濱田美和 (2003) 「日本語学習者のための「日本の歌」サイトの開設」『日本語教育方法研究会誌』

Maher John C. 2002 「童謡：その社会言語学的考察」『国際基督教大学学報. I-A, 教育研究』

寺内弘子 1996 「歌を教材とした日本語教育と異文化コミュニケーション」『法政大学教養部紀要(95)』, 11号

作田奈苗 1995 「日本音楽を題材にした日本事情の授業の試み」『言語文化と日本語教育』

寺内弘子 (2001) 『歌から学ぶ日本語』

Matthew J. Eynoon & Patricia A. Kataoka (2004) 『歌って上達!! 日本語会話!!』

範春娟、王海燕 (1998) 『唱歌学日語』

